

論文の内容の要旨

論文題名

Hirschsprung 病腸管の神経節細胞の局在についての免疫組織化学的検討

掲載雑誌名

昭和学士会雑誌 掲載予定

医学研究科病理系臨床病理診断学専攻 博士課程 福永 奈津

内容要旨

【背景・目的】

ヒルシュスプルング病(以下 HD)は消化管の Meissner と Auerbach 神経叢の神経節細胞の先天性欠如が原因で機能的腸閉塞をきたす疾患である。HD 根治術は肛門から連続する病変部を切除し、正常腸管と肛門を吻合する方法である。腸管組織を術中迅速診断に提出し、神経節細胞を確認して切除範囲を決定する。しかし正常の神経節細胞数や術中迅速診断の方法は規定されておらず、切除範囲を決定する基準がないのが現状である。HD 腸管の神経節細胞の局在や吻合部の細胞数を病理組織学的に検討した。

【方法】

対象は昭和大学病院および昭和大学横浜市北部病院小児外科で手術を行った HD 症例 9 例である。切除腸管の全割標本を作製し、Hu C/D の免疫染色で神経節細胞数や分布を検討した。

【結果】

自験例では生後 2-4 ヶ月の HD 患者の吻合部腸管の Meissner と Auerbach 神経節細胞数はそれぞれ 93.77 ± 20.9 個/cm, 110.3 ± 23.0 個/cm であった。

5 例は神経節細胞が腸間膜側よりも対側でより肛門側まで認められる傾向にあった。腸間膜対側で神経節細胞が 100 個/cm 以上認められても腸管膜側では神経節細胞が見られない症例が 3 例見られ、そのうち 1 例は口側断端の腸間膜側約 30%が無神経節腸管であった。

【考察】

術中迅速診断では腸間膜側と対側の複数ヶ所の組織をし、神経節細胞の分布に不均一性がなく、腸管蠕動を担う Auerbach 神経節細胞数が 100

個/cm 以上ある腸管を正常腸管とみなすことで過不足なく病変部を切除することができる考える.